

たたらの里山再生特区 [指定：平成23年12月、認定：平成28年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.3 + 3.3) / 2 = 3.3$

3.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	人口の社会動態(転入から転出を減じた人数)	13%	1
2	まちづくり活動に参画する市民の割合	97%	4
3	市民参加型林地残材搬出量(年間)	87%	4
4	コミュニティビジネス売上高(30団体平均/年間)	80%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値

 $(5 \times 0 + 4 \times 3 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 4 = 3.3$

3.3

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(2.5+2.0+3.5) \div 2 = 2.7$

2.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.5

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

- ・多様な取組を通じて、再生可能エネルギーの活用拡大、市民参加、六次産業化等を着実に進めている様子が窺える。
- ・市民参加型林地残材搬出と地域通貨を組み合わせた事業は、市民の林地への関心を高める上でも大変有意義と思われる。「瑞風」の立ち寄りによる効果もあり、農家レストラン等の売り上げが増加していることは喜ばしい。
- ・人口の社会動態について、人口減少を食い止めることは容易ではない。交流人口と関係人口を増やすという戦略でよいと考える。今回はサブ指標を入れることで評価できる姿をしっかりと示すことができていることは特長として重要なことである。ただし、目標からの乖離が大きくなっており、市内の地域別の動態や特徴など、さらに深い分析は必要と思われる。
- ・コミュニティビジネス売上高については販売金額の増加だけでなく、そこで生み出された雇用や、地域内で循環しているお金を視野に入れて分析・評価する必要がある。お金の循環を定量的に把握するのは難しいが、実施できればその意義は大きい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.3+2.7+3.5 \times 2) \div 4 = 3.3$

3.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。